

# 今日のシライ中

白井の愉快的仲間たち

VOL.25

## カマキリ

「今日のシライ中」に紹介されていた、カッコいい昆虫「カマキリ」。1年生の国語の教科書に載っていた「おれはかまきり」、覚えていますか？あの「どきどきするほど光ってる」カマを持つ「カマキリ」です。

この昆虫は、数々のエピソードに富んだ昆虫です。まず、あの、大きな複眼。カマキリと目が合う？と、ずっと視点がロックオンされたように感じられます。が、これは、勘違いです。あの複眼のすごいところは、3Dでものを見分けられるところです。しかも、「動いている」獲物と「背景」との距離を測れる3Dです。確かに、「カマキリ」は、むやみやたらと動き回って、獲物をとることはしません。自分は動かず、動く獲物との距離を測って狩る、究極のハンターです。ちなみに、「カマキリ」は、生きた餌しか食べないので、育てるのは大変です。（「ハナカマキリ」を育てた経験者談。）

余談ですが、「カマキリ」も、自分が小さいときは、その大きさに見合った餌にしか手を出しません。ちょっと大きくて無理かな？と思っているらしいときは、見なかったことにしています。この「見なかったこと」にしているポーズに、ハンターとしての誇りを見るようで、面白かったです。また、餌が豊富であれば、食べる部位も決まっており、食べにくい部位はポイっと捨ててしまいます。

二つ目に、「雌が雄を食べてしまう」説。これは、全ての「カマキリ」に必ず見られることでもなく、運が悪いと・・・といったレベルです。ただ、栄養を得た雌は、産卵に生かしているのです。結果的に雄のDNAは、より残りやすくなります。そして、最後に、知る人ぞ知るあの「ハリガネムシ」。寄生虫の中でも有名な「ハリガネムシ」は、「カマキリ」やバッタなどに寄生し、その脳を操り、水中に入らせてしまいます。もちろん、「カマキリ」は、泳げませんから、通常であれば、水辺に近づくことはありません。でも、この「ハリガネムシ」を食べた水生昆虫のうち、幼虫が成虫となり、陸に上がってきたものを、「カマキリ」などが捕食すると、「シスト」という形状で「仮眠」していた「ハリガネムシ」が、目を覚まし、「カマキリ」などの中で成長するのです。怖いですねえ。まるで、ホラー映画ですねえ。あれ？この話題、以前どこかで目にしたような・・・。そうです。「カタツムリ」に寄生する「ロイコクロディウム」と一緒です。最強のハンターであっても、腹の中の寄生虫には手も足も出ないのです。生物の世界、恐るべしです。

余談ですが、「カマキリ」は、雪の深さを予想して「卵」を産む。と長いこと信じられてきましたが、これは、そうではないことが、実験・観察からわかってきました。「カマキリ」の卵は、たくさんの空気を含んだ「卵鞘 らんしょう」で包まれており、その断熱効果は抜群です。したがって、たとえ雪に埋もれても、孵化します。（家の中で孵化すると大変です！経験者は語る・・・。）相手が車であっても、立ち向かいカマを振りかざす「カマキリ」。カッコいいですねえ。（でも、結果は・・・。少しは逃げてよかったような気が・・・。）

